

## 安全データシート (SDS)

## 1 化学品及び会社情報

## 化学品の名称

製品名 チモパール  
製品コード

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名 アリスタ ライフサイエンス株式会社  
住所 東京都中央区日本橋一丁目4番1号  
担当部署 マーケティング本部  
電話番号 03-5203-9310

(製品の使用方法は、03-5203-9350 に連絡すること。)

(事故等による急性中毒は下記の公益財団法人

日本中毒情報センターに連絡すること。)

## 緊急連絡電話番号

公益財団法人 日本中毒情報センター

事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る。

中毒 110 番	一般市民専用電話 (情報提供：無料)	医療機関専用有料電話 (情報提供：1 件 2,000 円)
大阪 (365 日、24 時間対応)	072-727-2499	072-276-9923
つくば (365 日、24 時間対応)	029-852-9999	029-851-9999

なお、弊社製品に関するお問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の情報提供料 (1 件 2,000 円) は弊社が負担いたします。

## 整理番号

ALA02-25 動 3245-2

## 推奨用途

動物用医薬品  
(みつばち寄生ダニ (ミツバチヘギイタダニ) の駆除)

## 使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

## 2 危険有害性の要約

## 化学品の GHS 分類

## 物理化学的危険性

分類できない

## 健康有害性

急性毒性 (経口) 区分 4

皮膚腐食性/刺激性 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/ 区分 1

眼刺激性

**環境有害性**

水生環境有害性 短期（急性） 区分2  
 水生環境有害性 長期（慢性） 区分2

**GHS ラベル要素  
 絵表示**



**注意喚起語  
 危険有害性情報**

危険  
 飲み込むと有害  
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 水生生物に毒性  
 長期継続的影響によって水生生物に毒性

**注意書き**

[安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。  
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
 環境への放出を避けること。  
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 口をすすぐこと。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
 漏出物を回収すること。

[保管（貯蔵）]

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

**他の危険有害性  
 情報なし**

**重要な徴候及び想定される非常事態の概要**

飲み込んだり、皮膚に接触または吸入すると有害

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

**3 組成及び成分情報****化学物質・混合物の区別**

化学物質

**組成及び成分情報**

化学名又は一般名	CAS 登録番号	官報公示 整理番号 (化審法・安衛法)	濃度又は濃度範囲 (wt%)
チモール	89-83-8	3-521 4-57	100

**4 応急措置****ばく露経路による応急措置**

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸でよく洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合は、直ちに医師の手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

直ちに医師の診断を受けること。

**急性症状の最も重要な徴候症状**

飲み込んだり、皮膚に接触または吸入すると有害

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

**遅発性症状の最も重要な徴候症状**

情報なし

**応急措置をする者の保護に必要な注意事項**

ばく露による二次災害の防止のため、『8 ばく露防止及び保護措置』の保護具を着用する。

## 医師に対する特別な注意事項

症状が持続する場合には医師に相談する。

---

## 5 火災時の措置

---

### 適切な消火剤

水、CO<sub>2</sub>、粉末消火剤を使用すること。

### 使ってはならない消火剤

直接の棒状注水（飛散及び火災の延焼を避けるため）

### 火災時の特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

### 特有の消火方法

火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。

消火作業は、風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動させる。

### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際には、呼吸器用保護具、保護帽、保護メガネ、保護手袋、耐火性防護服を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

風下の人を避難させ、風上より作業する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏出物の処理を行う際には、適切な保護具（『8 ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用する。

### 環境に対する注意事項

漏出物や汚染洗浄水が河川等に流入しないように堰き止め、環境中に放出させない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物を掃き集めて、密閉できる容器等に回収する。

粉じん用集じん機などで吸い取るなど、粉じんが飛散しない方法で取り除く。

### 二次災害の防止策

全ての着火源（熱、火花、裸火、高温、静電気放電等）を取除く。

排水溝、下水溝、地下室及び閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

### 取扱い

技術的対策

局所排気、全体換気を行う（『8 ばく露防止及び保護措置』を参照）。

安全取扱注意事項

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

作業場内でのばく露を最小限に抑えること。

獣医師の指導の下で使用すること。

効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

定められた用法・用量を厳守すること。

外気温が1日をとおして15～30℃となる期間において

投与すること。

投与期間中に外気温が30℃を超えた場合は、本剤の投与を中止すること。

本剤を使用した蜂群のローヤルゼリー、プロポリス並びに蜂体は食用に供さないこと。

妊娠中の女性には本剤の取り扱い作業を行わせないこと。

皮膚に付着した場合は直ちに石鹸等で良く洗うこと。

接触回避  
衛生対策

直射日光、高温多湿、霜等

取扱い後は、よく手を洗うこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

### 保管

技術的対策

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。

混触禁止物質

酸化剤、還元剤等

保管条件

小児の手の届かないところに保管すること。

本剤の保管は直射日光、高温、多湿及び霜を避けること。

開封後は直ちに使用し、保存しないこと。

涼しく風通しの良い場所に、30℃以下で保管すること。

安全な容器包装材料

法令の定めるところに従う。

---

## 8 ばく露防止及び保護措置

---

### 管理濃度

設定されていない

### 許容濃度

濃度基準値設定物質

設定されていない

八時間濃度基準値

濃度基準値設定物質

設定されていない

短時間濃度基準値

ACGIH TLV-TWA (2024)

設定されていない

ACGIH TLV-STEL (2024)

設定されていない

日本産業衛生学会（2024）

第3種粉塵：2 mg/m<sup>3</sup>（その他の無機および有機粉塵、吸入性粉塵）、8 mg/m<sup>3</sup>（その他の無機および有機粉塵、総粉塵）

## 設備対策

局所排気装置の設置、設備の密閉化、又は全体換気を適正に行う。  
取扱い作業場の近くに手洗い・洗眼設備、安全シャワー等を設置すること。

## 保護具

呼吸用保護具  
手の保護具

必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。  
不浸透性のゴム製の保護手袋を着用すること。

推奨素材	厚さ (mm)
ニトリルゴム	0.1、0.2、0.3、0.45
天然ゴム（ラテックス）	0.23
ブチルゴム	0.35
ネオプレンゴム	0.18
ポリビニルアルコール （PVA）	-
バイトン/ブチル	0.3
ネオプレン/天然ゴム	0.68
ニトリル/ネオプレンゴム	0.2
ポリ塩化ビニル/ニトリル ゴム	-
多層フィルム（LLDPE）	0.062
多層フィルム （EVOH）	0.06

眼及び/又は顔面の保護具  
皮膚及び身体の保護具

保護メガネを着用すること。  
不浸透性の保護衣を着用すること。

## 特別な注意事項

情報なし

## 9 物理的及び化学的性質

物理状態	固体（固化したチモールを染み込ませた固いスポンジ素材）
色	無色（スポンジ：黄色）
臭い	特異臭
融点／凝固点	48/52°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃 限界	該当しない
引火点	> 100°C
自然発火点	該当しない
分解温度	情報なし

pH	情報なし
動粘性率	該当しない
溶解度	情報なし
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数 (log 値)	3.52
蒸気圧	0.009 mmHg
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	情報なし
その他のデータ	情報なし

## 10 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱い条件下では安定である。
化学的安定性	30°C以下で保管すること。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	直射日光、高温多湿、霜等
混触危険物質	酸化剤、還元剤等
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

急性毒性 (経口)	区分 4 LD <sub>50</sub> = 980 mg/kg (推定値) ラットにおいて LD <sub>50</sub> = 980 mg/kg であり、EU 分類において Xn; R22 に定められていることから区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	区分に該当しない LD <sub>50</sub> > 5,000 mg/kg (推定値) ラットにおいて 2,000 mg/kg の濃度における死亡例が 10 匹中 0 匹であったことから区分に該当しないとした。
急性毒性 (吸入：ガス)	区分に該当しない GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入)	分類できない LC <sub>50</sub> > 100 mg/L (推定値)
皮膚腐食性／刺激性	区分 1 ウサギの試験 (OECD TG 404) において腐食性 (Corrosive) とされ、さらに EU 分類が C; R34 であることより区分 1 とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1 ウサギの試験 (OECD TG 405) において重度の刺激性 (Highly irritating) を示したこと、および皮膚腐食性が区分 1 であることから区分 1 とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：分類できない 情報なし 皮膚感作性：分類できない ヒトにおけるパッチテストにおいて皮膚感作性を示した

が、それぞれ、1/4 および 1/18 程度であったとのデータがあるが他に情報がなく分類できない。

生殖細胞変異原性	区分に該当しない マウスの骨髄細胞を用いた小核試験（OECD ガイドライン 474）（体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験）において陰性であることから区分に該当しないとした。なお、 <i>in vitro</i> 変異原性試験としてエームス試験において陰性、CHL 細胞を用いた染色体異常試験において陽性を示している。
発がん性	分類できない 情報なし
生殖毒性	分類できない ラットの経口投与試験（OECD TG 422）において、親動物の性周期、交尾率、受胎率、妊娠期間、黄体数、着床数、出産率に対照群との有意差は見られず、仔動物では高い濃度において体重増加抑制が見られているが、出産児数、性比、出生率、および新生仔生存率に有意差は認められず、催奇形性を示唆する変化も見られていない。しかし、仔の発生毒性の情報が十分ではないことからデータ不足で分類できないとした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない 情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない ラットの強制経口投与試験（OECD TG 422）（用量：8, 40, 200 mg/kg/day；雄：43 日間，雌：交配前 14 日から授乳期 3 日まで）において 40 mg/kg/day 以上の用量で雌雄ともに前胃において粘膜過形成、炎症性細胞浸潤および浮腫が見られている。しかしこれらの所見は被験物質による刺激性によるものと推察され、ガイダンスの区分 2 を超える 200 mg/kg/day の用量において、雄で体重抑制および 1 匹の死亡例が確認され、雌で自発運動減少および歩行失調が確認されているだけで他に影響は認められていない。また、ラットの混餌による 19 週間経口投与試験（用量：1,000, 10,000 ppm/kg（ca. 75, 750 mg/kg/day））においてガイダンスの区分 2 の 750 mg/kg の用量まで影響はみとめられていないことより区分に該当しない（経口）に相当するが他経路の情報がなく分類できないとした。
誤えん有害性	分類できない 情報なし

---

## 12 環境影響情報

---

### 製品の環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 区分 2 甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC <sub>50</sub> = 4.5 mg/L であることから、区分 2 とした。 水生環境有害性 長期（慢性） 区分 2 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく、甲殻
------	---

類（オオミジンコ）の21日間NOEC = 2.0 mg/Lから、区分に該当しないとなる。

慢性毒性データが得られていない栄養段階（藻類、魚類）に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく、魚類（ヒメダカ）の96時間LC<sub>50</sub> = 4.7 mg/Lから、区分2となる。

以上の結果を比較し、区分2とした。

残留性・分解性

急速分解性はない

生物蓄積性

*n*-オクタノール／水分配係数：3.52

土壌中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

該当しない

### 13 廃棄上の注意

化学品汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
残余廃棄物

本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い、速やかに処分すること。

#### 汚染容器及び包装

使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い、速やかに処分すること。

### 14 輸送上の注意

#### 国際規制

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

#### 海洋汚染物質

該当

**MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質**

非該当

**輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：**

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、包装あるいは容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

**国内規制**

陸上規制情報 該当しない

海上規制情報 該当しない

航空規制情報 該当しない

**15 適用法令****該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報**

化学物質排出把握管理促進法

該当しない

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物（2-イソプロピル-5-メチルフェノール（別名チモール）（1 重量%以上を含有する製剤その他の物。）（2025年4月1日以降）

名称等を通知すべき危険物及び有害物（2-イソプロピル-5-メチルフェノール（別名チモール）（1 重量%以上を含有する製剤その他の物。）（2025年4月1日以降）

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（チモール）

毒物及び劇物取締法

該当しない

**その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報**

薬機法

動物用医薬品

水質汚濁防止法

指定物質（フェノール類及びその塩類）

海洋汚染防止法

海洋汚染物質（環境有害物質（固体））

下水道法

水質基準（フェノール類）

**16 その他の情報****参考文献**

アриста ライフサイエンス株式会社提供資料

NITE GHS 分類結果一覧（2025）

日本産業衛生学会（2024）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2024) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意下さい。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。